

## 【実践報告】

# 2020年度教職実践演習授業報告（中・高，栄養）

広島文教大学

教育学部	教育学科	教授	笹原豊造
人間科学部	人間福祉学科	教授	菅井直也
教育学部	教育学科	准教授	白石崇人
人間科学部	人間栄養学科	講師	塩田良子

## 1 本演習の方針

教育実践演習は「教職課程の履修の全体を通じて身に付けるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践」として位置づけられる。そこで、「教員として求められる4つの事項として、①使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項，②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解に関する事項，④教科等の指導力に関する事項」について研修を深めることを目的とする。

今年度は栄養教諭資格を取得する学生がなく，英語教諭資格希望の3名のみが受講した。

## 2 授業計画 実施場所（模擬授業教室）

回	月 日	テーマ，時間
1	9.29.	教育実習
2	10.06.	特別支援教育の今日的課題Ⅰ～幼児と低学年児童の場合～
3	10.13.	特別支援教育の今日的課題Ⅱ～高学年と中学生の場合～
4	10.20.	教育実習
5	10.27.	ガイダンス
6	11.10.	教育時事問題（1）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
7	11.17.	教育時事問題（2）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
8	11.24.	教育時事問題（3）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
9	12.01.	教育時事問題（4）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
10	12.08.	教育時事問題（5）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
11	12.15.	教育時事問題（6）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答
12	12.22.	英語関連模擬授業 早期英語教育に関して，賛否両論を示し自らの見解を発表
13	1.12.	保護者・地域対応のワークショップなど
14	1.19.	道徳教育模擬授業 道徳教材を活用して，20分程度の模擬授業
15	1.26.	まとめ「私の目指す教師像」 「私の心に残る先生」に言及し，目指すべき教師像を発表

補足：今年度は教育実習と日程が重なり，授業としては13回であるが，自学自修としてレポートを課した。13回目以降はオンライン授業となった。

### 3 活動の概要

#### (1) ガイダンス

#### (2) 特別支援教育の今日的課題

学生のレポートより：

特別支援教育の今日的課題②では主な発達障害である知的障害・自閉症スペクトラムASD・注意欠如/多動性障害AD/HD・学習障害LDについてその発達障害の定義・あらわれかた・困難さの背景・対応について実際に先生が出会った児童の話をつなぎ交ぜながら説明して下さいました。そして、ADHDに関しては薬物療法についても話して下さいました。発達障害とはなんらかの要因による中枢神経系の機能異変のため、生まれつき認知やコミュニケーション等の能力の発達に緩慢さや著しいメリハリを生じ、日常生活に支障が生じる状態ということですが、観点を変えてみると、「ひととき大きな個性」を持っている・「普通」と「発達障害」の間に明確な境界線はない・特徴のあらわれかたは十人十色であると古田先生は述べていました。最後に、特別支援教育で行うサポートのために必要なことを事例を混ぜながらたくさん教えて下さいました。得意なことを見つけ能力を伸ばす・授業中の気配り・問題行動を起こした時の対処方法など。「本人の努力では追いつけない領域がある」ということを理解し、なぜできないのか特性や弱点を知ろうとすることが大切であると古田先生は述べていました。

#### (3) 教育時事問題

教育時事問題について調査し発表することは、例年通りである。しかし、今年度は受講学生が3名であり、討議の時間を十分に確保するために、時事問題のテーマを分野別にまとめた。

提示した6つのテーマに関して3名で分担して、調査し発表する。そののち、教員が解説を加え、討議。

##### ①学力に関するテーマ

学力観の変遷（「学力」に関して様々な見解が示されてきた。その当時の社会情勢に言及しながら）／学力テストの歴史と現状（学力テスト実施の歴史とそれに関わる諸課題）／ゆとり教育（ゆとり教育が実施に移された経緯とその後の情勢）

##### ②子どもを取り巻く環境に関するテーマ

不登校の現状とその対策（不登校の実態と具体的な対策）／子どもの貧困（子どもの貧困の現状と具体的な対策）／就学支援と奨学金制度（日本の就学支援及び奨学金の実態と諸外国との比較）

##### ③教師の働き方に関するテーマ

多忙な教員と働き方改革（教員の勤務の実態と働き方改革）／教育公務員とは（教育公務員の法的裏付けとその地位）／学校組織（学校組織の特徴と内包する課題）

##### ④戦後民主主義に関するテーマ

日の丸と君が代（国旗国歌法成立の経緯）／教育基本法の改定（教育基本法の成立及びその改定の経緯）／教育委員会の改革（教育委員会の果たしてきた役割とその改革）

##### ⑤学校社会に関するテーマ

いじめ（いじめ防止対策推進法が成立するまでの経緯と今後の課題）／体罰（主な体罰事件とその根絶を目指す対策）／校則とは（校則の実態とその課題）

##### ⑥学校を取り巻く社会の変化に関するテーマ

モンスターペアレント（モンスターペアレントが問題視された経緯とそれに臨む態度）／学校制度の変革（中高一貫校など、従来の学校制度を変革する動き）／「私たちが理想とする学校」（3名で話し合う）

今年度はテーマを分野別に絞ることにより、討議に深みとまとまりが見られた。

学生のレポートより：「教育時事問題の発表」

私が印象に残ったテーマは、「子どもの貧困」です。これまで子どもの貧困は単に、親の経済状況のみが影響していると考えていました。しかし、養育費の問題や仕事と子育ての両立など、多くの要因が重なって貧困状態に陥っているのだと理解することができました。私も今学習したことから考えると、貧困状態であった同級生がいました。実際に彼女らは、進学が難しいことや修学旅行などのイベントはお金がかかり保護者に負担がかかることを悩んでいました。そのようにして、進学を諦めたり教育を受ける機会は決して平等には行き届かないということを感じました。授業でもあったように、これが経済状況を悪くする悪循環にも繋がり、貧困が子どもにも大きく影響することが分かりました。貧困状態である生徒に出会ったとき、まずはその悩みに寄り添える教師でありたいと思います。その生徒の家庭に合った制度がないかを検討し、公的な機関に相談できるだけの知識が必要であると感じました。生徒のためにも、貧困に悩む保護者のためにも、社会のことを勉強しておかなければいけないと気づくことができました。

学生のレポートより：「理想とする学校」

私の理想とする学校は、受験に縛られずに勉強ができいろいろなことに挑戦できる環境がある学校です。私は、受験のために先生の顔色を見ながら学校生活を過ごし、受験のために5科目を勉強するという気持ちだったのであまり好きではありませんでした。他の学校の生徒と交流ができるようなイベントの情報を先生が積極的に流したり、好きなことについて積極的に生徒が取り組みそれを先生方が応援してくださる環境があったら理想だなと思います。そして、多様な視点を持っている先生が増えればいいと思います。

#### （４）英語関連模擬授業

今年度は英語系の学生だけであったので、次のテーマを与えた。「早期英語教育に関して、賛否両論を調査し発表するとともに、あなたの意見を述べなさい。」

学習指導要領の改訂により、今年度2020年より全面的に小学校で英語が教えられている。多くの課題を抱えながら、見切り発車の感がある実施であり、保護者の関心度は高い。昨年度も話題になった「塾に行かなくても、だいじょうぶでしょうか?」、「だれが教えることになるのでしょうか?」、「英語を教える環境は整っているのでしょうか?」などについては、明確な指針がないままである。学生は「議論で自分の意見は反対でしたが、どちらにもメリット・デメリットがあるので一概に良い・悪いとは言えないなと思いました」と述べている。

#### （５）保護者・地域対応のワークショップ

本時は、保護者・地域対応についてのワークショップを行った。まず保護者・地域対応の事例について各自で調査してきたことを発表し、それを共有、質疑応答した。続いて、保護者のクレーム対応に関するケースメソッドを行った。最後に、保護者・地域対応の基本として、クレームの発生しやすい教育現場の性質の理解や、クレーム対応が目指すべき方向性、クレームの背景にある様々な事情についてレクチャーした。以上を踏まえ、最後に学生は保護者・地域対応に関する基本と今後の自分たちの課題について考察した。

教員の職務上、保護者・地域からのクレームはなるべく避けたいものである。クレームが出ないような日々の教育を慎重に進めることが基本だが、一度発生してしまったら、そのまま放置はできない。謝罪や誠実な対応はもちろんだが、対応の目的は一時的な鎮静化ではなく、恒常的な保護者・地域連携協働にある。そのためにまず、教員・学校と保護者・地域の間に相互理解が必要である。学生たちには、この点を理解して卒後の業務にあたってほしいと思う。

#### （６）道徳の模擬授業

奇しくも全員が中学2年生のクラスを想定した授業を構想した。とりあげられた教材は、文科省中学道徳読み物教材より「闇の中の炎」「背番号10」、『J-popで創る中学道徳授業』より「Hero」と池江璃花子のTwitterメッセージである。それぞれを用いて「法や決まり」「チーム（集団）とは何か」「生

命の尊さ、よりよく生きる喜び」を主題とする授業が構想された。

読み物による教材提示にありがちな国語の授業風の展開に加え、発問と応答が、生徒の側からはどうしても「先生の意図を当てるゲーム」になってしまう。どういう意図でどういう討論を予想し導くかという、発問づくり授業づくりの基本がここでも問われる。

道徳とルール（集団の決まり、決めごと）は切り離せないテーマだが、あくまで「決めごと」。社会と個人の関係を前提とする以上、個人に還元して事足れりではなく、背後にあるものや状況への着目と考察を導く指導者の目が必要である。

学生の事後コメントには、討論を促す工夫の必要性やそのためのアイデアに触れたものもあって、それなりの覚醒が認められる。

#### （7）「私の目指す教師像」および「日本の教育の課題」

1年生での「教師論」において、「私の心に残る教師」というテーマで発表を行っている。それを受けての、「私の目指す教師像」である。「優れた教師」の要素が5点に絞って提示されている。3名の学生の「優れた教師」に関する分析は概ね一致している。

学生A：授業力・コミュニケーション能力・マネジメント力・分析力・観察力

学生B：授業力・適応力・体力・コミュニケーション能力・人間力

学生C：コミュニケーション力・マネジメントスキル・共感力・学び続ける力・授業力

「教師は授業で勝負」は改めて言うまでもないし、それを支える、生徒や地域と関わるコミュニケーション力・セルフマネジメントを含むマネジメント力・観察力・本質を見抜く洞察力・寄り添える共感力などが挙げられている。さらに前提としての体力や学び続ける力に気づいているのも、頼もしい限りである。

これとは別に、最終回では「日本の教育の課題」3点を指摘させた。学生は、自らの体験と本講を含む学びを反映して、

学生A：教育格差・社会と教育現場の不一致・受け身型の授業

学生B：少人数学級実現・教員の勤務時間・教育格差

学生C：教師の働き方改革・ITC化への対応・いじめへの対応 と、7項目を挙げている。

## 4 おわりに

本年度は、教員として知っておくべき歴史的事情の入口に触れることにウェイトを置いた計画とした。また、COVID-19感染予防のため、年明けからの4回をTeamsを用いた遠隔授業とせざるを得なかった。とはいうものの、前期・後期ともに他の授業の多くが遠隔授業であり、学生・担当教員ともに、特段の戸惑いや不都合は生じなかったと言ってよいだろう。

遠隔での一番の懸念は、「道徳の模擬授業」（第14回）だったが、学生の遠隔発表慣れもあって、概ね滞りなくできた。ただ、「生徒の表情や反応が見えないことで、本当は生徒たちがどのように思っているのかを（とらえることが）普段よりも更に難しく感じました。」という感想など、遠隔授業の特質が認識されていることがわかる。この先、教員養成の過程において、学校における遠隔授業の性質と方法を熟知するための意図的な準備の場が必要となろう。

近年、この国の学校教育は、ILOやUNESCOといった国際機関から、教員の専門性や児童生徒の権利保障をめぐっては正勧告を受け続けているにもかかわらず、これへの対応や報道が殆どなされていないことを考えると、これらの背景をなす教育の現代史上のエピソードを本講が取扱い続けなければならないのも確かであろう。課題はつぎつぎに生じてくるが、学生を送り出すにあたって、卒後の研修の礎をわずかなりとも本講が提供できていると信じてやまない。